

岐阜県立可児工業高等学校

学 校 長 江口 健治郎

学校住所 可児市中恵土2358の1 電話 0574-62-1185

1 会議の名称 平成27年度可児工業高等学校学校評議員会 (第1回)

2 会議の構成 委 員 有本 敦子 PTA副会長
石原 里佳 元PTA役員、会社役員
小池 實 可児市中恵土自治会連合会長
林 善彦 可児市下恵土自治会連合会長
藤田 幸夫 (株)甲山製作所社長

(委員名五十音順)

学 校 側 江口 健治郎 校長
若尾 泰明 教頭
伊佐治 敬二 事務長
土田 公成 教諭(教務部長)
伏見 圭太 教諭(生徒指導部長)
水野 茂之 教諭(進路指導部長)
竹ノ内 秀樹 教諭(工業部長)
兼松 竹司 教諭(部活動推進部長)

3 会議の目的 岐阜県立可児工業高等学校の教育方針・重点及び学校課題を説明し、幅広い意見・提言を受け本校教育の改善・充実に資するとともに、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成27年7月14日(火) 10:00~12:00 可児工業高等学校校長室
委員4名、学校側6名、計10名が出席

5 会議の概要

(1) 教頭より

本校のマニフェストの説明。離職率が低くキャリア教育推進校として文部科学大臣より表彰された。今年度から毎朝8:30~8:40までチャレンジタイムを設けて学習習慣の定着を図った。資格取得にも積極的に取り組んでおり、難関の甲種危険物取扱者資格を取得した生徒がいる。様々な指定事業に取り組んでおり、評価手法の研究では可茂農林高校と共同で研究している。また、オーストラリアの姉妹高校へ8月に訪問する。

(2) 学校の近況と課題の説明

教 務 部：進学系3年生12名、2年生4名で今年度3年目を迎えた。10分間の朝学習。オープンキャンパスに中学生が460名参加予定。8月オーストラリアへホームステイ。体育大会、可児工祭も行われるので来場いただきたい。

生徒指導部：全体的には落ち着き学校生活を送っている。4学科のばらつきがなく、基準が統一された指導ができているが一部の生徒に着こなし指導をする必要がある。遅効防止にも、教育相談部と共に指導している。携帯電話の使用や情報モラルについて指導している。自転車事故防止やいじめの早期発見に取り組んでいる。

進路指導部：県内企業への就昨年度の進路状況は、70%が就職、30%が進学となった。

本日現在の求人状況は478名と平成23年度の求人がここ2週間で並んだ。今年度は8割が就職を希望している。企業では、運動系の部活動、上司からの指導に耐えるメンタル面の強い人を望んでいる。

工業部：地域に根ざした教育活動をしたい。各事業で、企業や地域との連携を通してコミュニケーション能力を向上させたい。各種イベントへの積極的な参加により、地域との交流や地域貢献を図りたい。来年1月に「飛び出せスーパー専門高校生支援事業」の発表会がある。

部活動推進部：昨年度の実績の報告。文化系・生産系部活動でも頑張っている。

(3) 授業参観

第2限の機械科の実習、化学技術科の製図を参観。

(4) 協議

「授業参観の感想や本年度の教育活動について、本校に期待すること」

意見 1 いい生徒が揃っている。企業が求める生徒として、部活動を励行し集団行動がとれる生徒を育成することが大切である。

意見 2 校舎内が全て土足にもかかわらず、汚れが無く校舎内が極めて綺麗である。製品には土などがあると不良品ができてしまうので、こうした環境は素晴らしいことだ。生産現場ではコンピュータを使い機械を動かす事が主流だ。情報技術に力を入れて欲しい。

意見 3 生徒さん達に地域行事運営に協力してもらい大変感謝している。ものづくりの喜びを地域の子供たちと享受できたことはとても喜ばしい。最近の親は、ものづくりに携われない。子供たちと一緒に遊びながら学ぶ楽しさや出来上がったときの喜びを体験させることは子供たちの成長には欠かせない。こうした地域の期待に先生方が応えようとしている。今後も協力をお願いしたい。可児工の良さを地域の会議等で伝えている。

意見 4 小学校、中学校で、ものづくりに興味を持たせて欲しい。普通科へ行くと都会へ行き帰ってこない。工業・商業科の生徒で地元を発展させて欲しい。

意見 5 先生に相談しやすい。このような可児工の良さを保護者にも知って欲しい。

意見 6 オーストラリアへの研修は良いことだ。他との違いがわかる。視点が変わる。

意見 7 元気な挨拶をしてくれるなど大人の対応ができています。

6 会議のまとめ

- ・本校に対する地域からの期待は大きく、地域との連携は今後も継続したい。生徒達に学習活動の目的や意義を明確に示し、一人一人にやり甲斐を持たせ自信に繋げたい。
- ・今後さらに魅力ある可児工業高校となるように、企業や地域と連携し本校の良さを広めることに努めたい。